



第95号

平成25年8月31日

発行

本荘由利森林組合

由利本荘市水林381

TEL 0184 24 4141(代)

FAX 0184 24 4143

木材流通センター 由利本荘市西目町沼田字新道下 1019 1
TEL0184 32 1088 FAX0184 32 1089

製材工場『木香里』 由利本荘市西目町沼田字新道下 1020 1
TEL0184 32 1080 FAX0184 32 1081

HP <http://www.honmori.com/> メール honmori@trad.ocn.ne.jp



平成25年度 連絡員会議
(6月25日 西目公民館 シーガル)

平成25年度 連絡員会議

6月25日、西目公民館「シーガル」で連絡員123名と役員の出席を得て、連絡員会議を開催しました。

組合長・宮野森つくり推進課長のあいさつに続き、各課より報告・連絡を行いました。

総務課より賦課金のお知らせ・年間行事や組合員異動の届け出のお願い、林産販売課より共販市況と円柱加工の稼働状況、造林課より造林補助事業についての説明、森林経営計画について、加工課より西目製材工場の稼働状況の説明がされました。



質疑応答では木材価格の今後の見通しについて、ナラ枯れの現状とこれからの対策について、補助金が昔に比べて扱いづらい、山林所有者の間でも山への関心がなくなってきた等多数の意見や質問があり組合長や組合担当者・振興局担当者が現状や今後について説明をしました。

連絡員の皆様には、お忙しいところご出席頂きありがとうございます。

林業研究会 第16回通常総会・視察研修

平成25年7月30日、31日にかけて林業研究会視察研修と通常総会が行われました。

参加者15名により秋田県大断面木構造共同組合（協和）にてプレカットの作業工程を、仙北東森林組合の製炭工場を株式会社門脇木材協和工場では6月より本格稼働した製材工場を視察しました。通常総会は田沢湖高原「ハイランドホテル山荘」にて開催されました。



秋田県大断面木構造共同組合



仙北東森林組合 製炭工場



門脇木材 協和工場

第19回 本荘由利森林組合造林コンクール開催要領

1. 趣 旨

この造林コンクールは、健全な活力ある優良林分を造成し、良質材生産を志向した保育作業の合理化と技術の向上を図り、由利地方民有林の森林整備事業の推進と実績を高めるため、本荘由利森林組合造林コンクールを開催し、合わせて所得向上に貢献することを目的とする。

2. 名 称 本荘由利森林組合造林コンクール

3. 主 催 本荘由利森林組合

4. 実施期間 申込：平成25年9月1日～平成25年10月15日
審査：平成25年11月1日～平成25年11月30日

5. 実施方法

参加資格

本荘由利森林組合組合員とする。（旧由利地方森林組合長会及び本荘由利森林組合主催の造林コンクールで入賞した林分は同一部門での申込はできません。）

参加林分の基準

平成24～25年度中に施業を実施した林分に限る。

A 人工林

(イ) 樹 種.....スギ

(ロ) 面 積.....0.10ha以上

(ハ) 林 齢.....植栽後 7年生以上

B 育成天然林

(イ) 樹 種.....広葉樹

(ロ) 面 積.....0.10ha以上

(ハ) 林 齢.....25年生以上

参加部門

第1部 幼齢林の部.....7年生～9年生

第2部 枝打ちの部.....11年生～30年生

第3部 保育間伐の部.....21年生以上

第4部 収穫間伐の部.....21年生以上

第5部 育成天然林の部.....25年生以上

参加申込

各支所に備え付けの参加申込用紙に記入の上、各支所経由で申込むものとする。

審査方法

審査委員長は、由利地域振興局農林部森づくり推進課長に依頼し、森づくり推進課員及び森林組合職員をもって審査するものとする。

審査基準

別に定める。

表 彰

組合長は、審査委員長からの審査結果報告に基づき入賞者を決定し、次により表彰するものとする。

第1部 幼齢林の部.....第1位から第3位まで3点

第2部 枝打ちの部.....第1位から第3位まで3点

第3部 保育間伐の部.....第1位から第3位まで3点

第4部 収穫間伐の部.....第1位から第3位まで3点

第5部 育成天然林の部.....第1位から第3位まで3点

注：参加林分の状況などにより、3位まで入賞に至らない場合もあり得る。

森林・林業をめぐる情勢(2)

～ 森林・林業をめぐる課題 ～

全国的に昭和50年代には、 m^3 4万円もした国産材の杉丸太価格が、昨年（H24）の上期には m^3 1万円を切るなど、史上最安値を更新しました。

また、山村では、森林所有者や労働者の高齢化が”山離れ”をもたらし、森林・林業を支える基盤の弱体化が進んでいます。

一方、高度経済成長期に続けられた拡大造林の杉やヒノキは、主伐期に近い林齢に達しており、間伐の遅れなどの問題は含んでいるものの、全体的には、森林資源は充実しつつあります。

しかしながら、今日本の林業は、様々な要因による採算性の悪化などにより、山には木があるのに十分に使われないという現状が続いています。



日本林業の歩み（図 1 参照）

日本林業がたどってきた歩みを概略的に図 1 に記述しました。

その結果、景気の好・不況のもとに、とりまく諸情勢（外材の動向、為替相場、関税、住宅着工戸数、林業の生産性（労賃、育林費、生産費）など）が複雑な要因として、からみ合い、国産材の価格と供給の低下をもたらすとともに、賃金の高騰や生産コストの上昇などが採算性の悪化を招き、厳しい現状に至っていることがわかります。

今回は、採算性の悪化をもたらしたこれらの要因について、もう少し詳しくご紹介したいと思います。



図 1 日本林業の歩み（主に木材価格の推移）

年 代	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> 丸太輸入の自由化（輸入の本格化） 丸太はS26、製材品はS39にほぼ関税0に
~ S40年代	<ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長期で、木材需要は旺盛（国産材だけでは需要不足） <p style="text-align: center;">需要旺盛 → 国産材・外材ともに価格上昇</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【木材需要】 S30 4,500万^m₃</p> <p style="padding-left: 20px;">S40 7,000万^m₃</p> <p style="padding-left: 20px;">S45 1億^m₃</p> <p>・外材率 S44...50%、S48...65%</p> <p style="padding-left: 20px;">米材、南洋材、北洋材（ソ連）に寡占</p> </div>
~ S50年代	<ul style="list-style-type: none"> S48第一次オイルショック S49高度経済成長期終焉 内需落ち込み始まる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【住宅着工戸数】 S48 190万戸</p> <p style="padding-left: 20px;">S55 120万戸</p> <p>・木造率も減少 40%</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> S55木材価格が最高値を記録 国産スギ丸太 39,600円 / m³ （内需は減少したが、外材（米材）価格に引っ張られた） その後は、急激に下落（S60は25,500円 / m³）
S60	<ul style="list-style-type: none"> 急激な円高（S59、1ドル252円 S61、160円） 製品関税率引き下げ（MOSS合意） <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">外材が安値に、国産材も低水準</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> バブル崩壊（H9以降木材需要・価格ともに低下） 円高（H6、1ドル100円） 米国の伐採規制（自然保護、マダラフクロウ） </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>欧州材等の輸入が拡大</p> <p style="padding-left: 20px;">外材寡占から輸入国の分散 欧州材、NZ材など</p> <p>輸入形態の多様化</p> <p style="padding-left: 20px;">丸太から製材品にシフト 集成材、エンジニアリングウッド等 （H8は、集成材元年といわれる）</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業・ハウスメーカーは、思惑買いからジャストインタイムに（必要なとき必要なだけ、小口取引化） 取引形態の多様化 需給緩和（需要 < 供給）が進む 価格さらに下落
(H10)	<ul style="list-style-type: none"> 林業の採算性の悪化（育林費、労賃は昭和51年の2倍に） プレカット率の上昇（H2は9%、H7は38%、H14は73%に）高品質、高精度化 （建築基準法の改正） 住宅建築は、大工・工務店から、ハウスメーカー大量生産システムへ （この市場変化に、国産材は対応しきれなかった） （KD材（乾燥材）供給能力の差）
現在	<ul style="list-style-type: none"> H21 木材需要量最低を記録（6,321万^m₃） 日本経済が一層低迷 下げ止まりが見えない状況

木材市況情報 (平成25年)

単位：円、上段（石当り価格）
下段 m³当り価格

樹種	材長 m	径級 cm	7月2日			8月2日		
			本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター		
			高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格
スギ	3.65	16~22	(2,629)	(2,511)	(2,585)	(2,648)	(2,448)	(2,606)
			9,465	9,043	9,308	9,533	8,815	9,382
ギ		24~34	(3,611)	(3,151)	(3,508)	(3,681)	(3,335)	(3,579)
			13,000	11,347	12,630	13,253	12,009	12,885
出材量・販売量・販売率			802m ³ (2,887石)・802m ³ (2,887石)・100%			864m ³ (3,110石)・764m ³ (2,750石)・88%		

7月：7回連続の完売で好調な売れ行き、高値安定を保っている。

8月：各径級とも引き合いが強まっている。需要バランスは保たれており、横パイで推移している。

総務課よりお知らせ

～ 賦課金納付のお願い ～

納付期限が過ぎておりますが、未納の方は早めに納入をお願いします。

納付は、組合本所・支所及び下記の管内金融機関へ納入下さいますようお願いいたします。

なお、秋田しんせい農協では手数料がかかりません。

【取扱金融機関】

秋田銀行管内各支店 / 北都銀行管内各支店 / 羽後信用金庫本店・各支店

山形銀行本荘支店 / きらやか銀行本荘支店 / 秋田しんせい農業協同組合各支店



各地区組合員研修

由利地区組合研修
実施日 / 8月2日(金)
参加組合員数 / 21名
場所 / 新秋木工業(秋田市)
研修内容
・工場内視察(合板加工)

岩城地区組合研修
実施日 / 8月2日(金)
参加組合員数 / 22名
場所 / 岩城勝手字狸ヶ沢
(経営計画団地)

西目製材所、共販所
研修内容
・団地視察
・西目製材所、共販所内視察

各地区組合員研修

森林組合だより 平成二十五年八月三十一日発行 印刷・(資)由利印刷



今後の行事予定

各地区組合員研修

9月10日
組合まつり

10月20日

平成25年度 林業相談日

相談員：三浦 光喜

9月	20日(金)
10月	18日(金)
11月	15日(金)